

第2回 東かがわ市地域公共交通活性化協議会協議要約

日時 1/31(水) 15:00~16:30

場所 東かがわ市交流プラザ2階多目的ホール

■議事次第

2 タクシーチケット実証実験の結果報告

○事務局より資料1に基づき実証実験の結果報告を行った。

委員) 実証実験でも(全て利用されれば)1,500万円程度はかかりそうだが市の予算はいけるのか。

事務局) 実証実験にあたっては同規模の額を確保していた。次年度以降は今回の利用状況を参考にしながら調整していく。

会長) データを取れたことは大きな成果、この結果が次につながる。利用者の意見で予約方法が分からないというものがあった。車での移動になれている方は、公共交通を使う機会が少なく、タクシーを利用しようにも使い方が分からないケースがある。こうしたケースへの支援も検討が必要。

委員) 資料のP5~8の地区別の利用状況の図について、詳しく説明してほしい。

事務局) 5ページの上段の図は、今回のチケット候補者である75歳以上の方の居住状況を、下段は申請者の居住状況を6ページは利用者の居住状況をそれぞれメッシュ図で表しており、山間部など市の中心部から離れるほど申請率などが低下する傾向が見られる。

チケットの利用枚数を分析したところ、0枚と10枚が大半を占めており、全く使わないか使い切ることの二極化の傾向が見られたため、7ページ上段に10枚全て使った方を、下段には0枚(未利用)の方をプロットした。これについては地区による大きな傾向は確認できなかった。

会長) 地域特性ではなく家庭の状況による影響が大きいかもしれない。また70歳を超えてくると、身体機能的に活動できる人とできない人が二極化してくる。とりあえず申請してみたが、一人では活動が難しく利用できなかったということもあるのではないか。

委員) チケットの利用方法について、対象者二人が乗る場合はチケットは2枚使えるのか。

事務局) 運賃総額を超えない範囲であれば1人1枚利用できるとしていた。具体的にはチケットの助成額が750円のため、運賃が1,500円以上の場合、対象者が二人で乗車すれば、1人1枚ずつ利用できる。1,500円未満の場合は1枚しか利用できない。

会長) タクシー事業者側の意見はどうか。

委員) 期間中は利用者が大幅に増えた。使わない人は利用方法が分かりにくいという意見があったが、一度利用すればタクシーの利便性が理解されると思う。タクシー会社としては非常にありがたい制度だった。

会長) 今回の結果を踏まえ、来年度も引き続きチャレンジしていければと思う。

3 引田線・五名福栄線の見直しについて

事務局) 引田線と五名福栄線の両方の路線について、減便の相談があった。五名福栄線については、三宝寺以降の五名方面の廃止を含めた相談をいただいていた。本市としては、五名方面の継続を依頼しており、五名方面を維持した形での減便を検討いただいている。なお、減便の時期については、令和6年4月の実施に向けて調整中で、運行内容等が決まり次第、市HPでも周知を予定している。

今後も路線維持のため、市でも福祉バス制度の見直しと、路線維持にかかる補助事業の導入、利用者の利便性向上のためのモータルミックス事業の実施を来年度より予定している。五名福栄線については、減便に併せて国のフィーダー補助金の申請も行う予定で、申請には市地域公共交通計画の一部変更が必要となるため、来年度当初に計画変更案の審議等をお願いしたい。

会長) 大川自動車より路線バスの見直しについて、説明をお願いしたい。

委員) 現在、バス業界では大型二種免許取得者の減少、運転手の高齢化等を背景として運転士の要員不足が深刻な問題となっている。また、2024年4月より働き方改革関連法の適用に伴い、休息時間の拡充や、時間外労働や拘束時間の見直しがあり、バス運転士の労働時間の基準が厳しくなることから、運転士不足が更に顕著になるものと想定している。弊社でも慢性的な人員不足の中で、地域の足を守るため、運転士の時間外労働や休日出勤などにより、運行を維持してきたが、対応策も限界がきており、運行の安全確保や運転手の健康・生活面の観点から、平常時のダイヤ維持が困難と判断し、今回苦渋の決断で路線バスの一部減便を実施することとなった。

具体的な減便の内容は、路線毎に担当する乗務員数を減らす形で調整しており、五名福栄線は現在、平日2人、休日1人の体制で運行しているのを、平日1人に見直し、休日は運休とする。なお、便数は、五名方面を残すため、三宝寺三本松の便を減らす形で調整している。

引田線については、平日の乗務員を7人から6人に見直し、休日は現状を維持する。通勤通学の利便性を低下させないように昼間の便を間引いて対応する。引田線の主要系統である高松引田系統は社としても死守したいという強い思いがあり、高松引田系統を減便せず、その他の系統を廃止・減便することで対応する予定。

今後も引き続き、バス運転手の確保及び育成に向けて一層努力していく。ご利用のお客様にはご不便をかけ申し訳ないが、何卒ご理解賜りたい。

委員) コースの一部見直しを行った引田線の三本松引田系統の白鳥商業エリアの利用状況はどうか。状況がよければ増便案の採用を検討してほしい。

委員) 思った以上に利用が伸びていない。乗客数が増えれば、他の系統にも拡大させたいが現状は足踏み状態。

委員) 利用者が減るのはやむを得ない部分がある。バスの利用促進には市の支援も必要と考えている。学生の利用しやすい便にしてほしい。

委員) バスの中でイベントの周知も行っている。また、小学校などでの乗り方教室も行っており引き続き継続したい。

会長) ルート変更は行政と交通事業者だけでは限界がある。目的地である商業施設側にも協力してもらうなど、施設側を巻き込んでいけるかが重要である。乗務員不足は大きな問題、北海道では移住者が運転士になった場合に支援する例もある。エリアや時間など一定条件下での自家用有償やライドシェアの検討も必要になる。こうしたことができれば減便のマイナスも改善できる可能性がある。本会でもみんなでアイデアを出しながら考えていければいい。

委員) 高松引田は死守したいとあったが、それは利用実態によるものか。

委員) もともと高松引田系統がメインの系統で、そこに乗務員の休憩や利用者の多いエリアに対応するため他系統を増やした経緯がある。利用者の乗継効率も考慮し、高松引田系統に集約する。

委員) 本協議会の位置づけはどうか。民間企業の決定に意見できるものなのか。

会長) 本会は関係機関等との情報共有の場であり、減便など民間事業者の決定を直接左右できるものではないが、事前に知ることに対応案が考えられることもある。根本的な改善にはならないのも現

実だが、少しずつ改善にはつながっている。

バスは乗務員がいないと便や路線に波及するなど影響が大きい。タクシーは稼働台数が減るだけで全体への影響は小さいのは利点。柔軟な対応が可能なタクシーの特性を何か活用できればいい。

委員) 全国的に人口減少が進む中、東かがわ市は特に減少率が大きく、喫緊の課題である。公共交通も人口減少の面での検討が必要。打つ手なしではよくない。いかに人材をよそから連れてこられるかが全県的な課題である。

路線バスは市だけの話でない。沿線市町を含めた広域的な取組みはないのか。

会長) 沿線市町での協議は、いくら負担するかという財政的な議論になりがち。引田線は引田から乗る人もいれば長尾から乗る人もいる。幹線としての意識づくり、バスを使わない人も負担するという意識づくりも必要。タクシーは高齢者のものといった誤った認識も含めて公共交通の適切な認識を住民に訴求することも必要。

4 地域公共交通計画の進捗状況について

○事務局より資料2に基づき計画の進捗状況について報告を行った。

会長) 目標については、達成できた・できていないを確認することが重要ではない。それぞれ、達成、未達の理由を議論することが重要なので、結果だけで判断しないように。

行政の支援だけでなく、みんなで考えていくことが重要。バスの収支を見てもマイナス額は市民一人当たり2~3千円程度で、全員で負担すればそのくらいのものになる。高齢者向けの施策が中心になりがちだが、このまま利用が先細るとより厳しくなる。ボリュームゾーンに使ってもらえる施策が重要。子どもに乗ってもらえば親や祖父母も乗ってくれるなど、土日の利用増進にも期待できる。商業施設との連携ができていないのも課題。サブスク型などやり方を考えれば伸びしろがある地域だとは思う。

委員) バスに乗る人を増やす策の検討が中心になっているが、住民の意見を聞いていくことも重要。

委員) 広域的な取組みには県や国の支援が必要。国県の考え方も教えてほしい。

委員) 県では現在、地域公共交通計画の策定を行っている。これまでもバス路線への補助等を行っており、広域路線については県の計画に位置付けた上で引き続き支援を検討していく予定。また、利用促進や乗務員の育成支援なども行っている。

委員) 国としては広域的な路線への補助を行っており、引き続き支援を継続する。また、各市町の取組みに対しても、個別にサポートできるようにしている。

委員) バスは公的支援が前提になっているが、その必要性について市民の意見をアンケートなどでも確認する必要があるのではないか。

委員) 東かがわ市では産後ケアのための支援策として交通費等の助成事業をはじめた。

会長) こうした取組みには病院等の対象施設での周知が重要なのでアナウンスを行ってほしい。また、これ以外にも直接は公共交通に関係ないように思われる施策も関連付けて考えることが重要なので引き続き提供できる内容があれば報告いただきたい。

5 その他

(質疑等無し)

以上